

令和5年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指している。

令和5年度は、県および甲賀市からの指定管理第4期（5年間）の3年目として、第4期中期経営計画に基づき、県、甲賀市と連携を図り、誘客の推進、国際的な情報発信、魅力ある展覧会の開催、次世代育成などの事業を積極的に展開し、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

また、陶芸の森の隣接地に移転した信楽窯業技術試験場との連携をより一層深め、互いの強みを活かし協力しながら、陶器産業の振興支援策を行ったところである。

そうした中で、令和5年度の入園者数は、コロナ禍前に回復し、企画展の「岡本太郎アートの夢展」が好評で、さらに3月から「リサ・ラーソン展」が始まったこともあり、目標値の35万人を大きく上回り38万2千人余となった。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

令和5年度から、県が部局横断で新たに取組を進めている「THEシガパーク」プロジェクトを踏まえて、太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、来園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努めた。

(1) 陶芸作品の野外展示

レジデンス作家の作品を野外展示し、陶芸の森という名にふさわしい自然の中で鑑賞を楽しむことができる空間づくりの一環として、現在設置されている作品の洗浄作業を実施するとともに、劣化が著しい作品1点を撤去した。

(2) 窯の広場

穴窯を始め薪窯の運用により、づくり手である陶芸家のニーズに応え、活動意欲の向上に繋げるとともに、来園者には活きた薪窯を見学いただき、園内散策のポイントとした。

(3) 花咲く公園

「火鉢ロード」と命名した陶芸館に続く歩道沿いに、昭和時代に信楽焼の主力製品であった各種火鉢を配置し、来園者にレトロな雰囲気味わっていただくとともに、ゴルフ緑化協力金を活用した（公財）滋賀県緑化推進会の支援により、新たに桜木を植樹いただくなど、様々な花木や草花を適切に管理し、四季折々の景観向上に努めた。

(4) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、園内園芸作業など、ボランティアによる活動支援を受けた。

・令和5年度登録ボランティア数 4人 ・延べ活動人数 3回／5人

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

やきものファンに信楽をより知ってもらうために、陶芸体験講座として「しがらき学ノススメ」や一般参加型のイベントを開催した。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ!

ア. 実技講座シリーズ

- 練り込みのうつわをつくる (中級)
＜開催日＞ 令和5年5月21日(日) ＜参加者＞ 14人
- ラク焼の茶碗をつくる (中級)
＜開催日＞ 令和5年5月28日(日) ＜参加者＞ 15人
＜開催日＞ 令和6年3月10日(日) ＜参加者＞ 14人
- 七輪で粘土をやいてみよう! (初級)
＜開催日＞ 令和5年6月11日(日) ＜参加者＞ 11人
- 食卓を彩るうつわをつくる (初級)
＜開催日＞ 令和5年6月25日(日) ＜参加者＞ 11人
- ミニ窯をつくる
＜開催日＞ 令和6年3月17日(日) ＜参加者＞ 13人

イ. 穴窯体験講座

- 信楽大壺をつくる (上級)
＜開催日＞ 令和5年10月21日(土)・
22日(日) ＜参加者＞ 8人
- 信楽壺、蹲をつくる (中級)
＜開催日＞ 令和5年10月29日(日) ＜参加者＞ 15人
- 信楽焼のうつわをつくる(初級)
＜開催日＞ 令和5年11月12日(日) ＜参加者＞ 15人
- 信楽焼の干支をつくる(初級)
＜開催日＞ 令和5年11月26日(日) ＜参加者＞ 15人

ウ. 穴窯焼成クラス (説明会)

- ＜開催日＞ 令和5年9月10日(日) ＜参加者＞ 15人

エ. 登り窯講座

- 信楽焼のうつわをつくる (初級)
＜開催日＞ 令和5年9月3日(日) ＜参加者＞ 16人
- 信楽大壺をつくる (上級)
＜開催日＞ 令和5年9月9日(土)・10日(日) ＜参加者＞ 8人
- 信楽水指、茶碗をつくる (中級)
＜開催日＞ 令和5年10月1日(日) ＜参加者＞ 6人

(2) イベントの開催・誘致

ア. 第17回 信楽作家市 in 陶芸の森の誘致

- ＜開催日＞ 令和5年5月2日(火)～5日(金祝)
- ＜主催＞ 信楽作家市実行委員会
- ＜参加者＞ 来園者：45,296人 (令和4年度：39,799人)
陶芸家等出展：122件、飲食関係出店：17件

イ. 第28回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

- ＜開催日＞ 令和5年9月16日(土)～18日(月祝)
- ＜参加者＞ 来園者：19,541人 (令和4年度：17,457人)
陶芸家等出展：98件、飲食関係出店：9件

ウ. 第3回しがらきの森クラフトフェスタ

＜開催日＞ 令和5年11月4日(土)・5日(日)　　＜参加者＞ 11,000人
＜陶芸家等出展＞ 49件　　＜飲食関係出店＞ 17件

エ. わくわくウォーキングin陶芸の森

＜開催日＞ 令和5年12月3日(日)　　＜参加者＞ 37人

(3) 観光および集客促進のための広報活動

新聞広告等の有料媒体を始め、ウェブを中心とした無料媒体への情報提供や、パブリシティ、ホームページの充実を通じて積極的な情報発信を行った。

○主な掲載・放送実績

- ・TV・ラジオ 12件 「滋賀プラスワン《岡本太郎展》」(BBC、アイコム甲賀、YouTube) 他
- ・新聞 22件 「京都新聞」「毎日新聞」「読売新聞」「中日新聞」 他
- ・雑誌 26件 「美術の窓」「関西ウォーカー 秋・2024冬」「ぴあMook」 他
- ・Webサイト 15件 「るるぶ Kids」「陶芸ネット」「スカulptターズ・ラボ」「週刊じゃらん」「JR西日本こどもおでかけ応援ポータルミライ」 他

○バーチャルミュージアムの充実

今年度開催した岡本太郎展の出品作品、岡本太郎「犬の植木鉢」(当館蔵)とフィギュア造形の大島雅人「お化けごっこ」の3D映像を「陶芸館3Dデジタルアーカイブ」に追加、会期後半に広報用映像としても活用。また同展のパート2【シーン4】川田知志「太郎の色とカタチ×パブリック」(陶芸館ギャラリー)の展示空間のVR映像を、会期終了後に同アーカイブに追加更新した。

(4) 信楽産業展示館多目的ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい、陶芸に関する交流の場とするため、講演会や講座の開催など、各種事業を通じて多目的ホールの活用を図った。

5年度は、中部圏知事会議の視察先として、当館のつつこ体験を視察し、ホールで絵付け体験を実施された。

(5) 適切な施設管理

地域の産業振興や文化・観光の拠点として、また、来園者にとってくつろぎの場となるよう、公園内の適時樹木剪定や草刈り、落葉清掃、びわ湖材活用丸太ベンチの新規設置など、適切な施設の維持管理に努めた。なお、台風接近時等には災害警戒と来園者の安全性を考慮し、臨時休園措置をとった。

- ・台風接近休園 令和5年8月15日(火)

3. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

陶芸の森がより一層充実した事業展開が図れるよう、「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付について、各種事業実施時やホームページなどを通じて周知した。併せて、招待券の配布や内覧会への招待など、税控除制度以外の独自の特典を設けた「陶芸の森サポーター制度」を広くピーアールし、企業、団体、個人からの幅広い支援に繋げた。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

(1) 特別企画「特別企画「湯呑茶碗—日本人がこよなく愛したやきもの」

湯呑茶碗は、日本人に最も親しみのある「やきもの」であり、明治時代末期から昭和時代前期には、各地の名所や名物を表現した多種多彩な湯呑茶碗が焼造されてきた。

本展では、小さな器に当時の名工や作家の技とこだわりを発揮した、当館の「坂口恭逸湯呑コレクション」を紹介し、日本人がこよなく愛した湯呑茶碗の魅力に迫った。

<開催期間> 令和5年4月1日(土)～6月25日(日) (前年度から継続：74日間)

<観覧者> 4,957人(1日平均67.0人)

【関連事業】

○ギャラリートーク

<開催日> 令和5年4月23日(日) <参加者> 10人

令和5年5月21日(日) <参加者> 50人

○近江茶の銘茶を楽しむ(滋賀県茶業会議所との連携)

① 特設展示 会期中、近江茶の歴史・産地・製法を解説パネルやビデオで紹介

② 賞味会 滋賀県茶業会議所の主催で「極煎茶比叡」「琵琶湖かぶせ」の賞味会を実施

<開催日> 令和5年4月8日(土)・9日(日)

○訪ねてみよう! 信楽の窯元(信楽 窯元散策路 Wa との連携)

会期中、窯元散策路の見所をビデオやパネルで紹介、また湯呑茶碗を協賛出品。

○ショップ企画販売

会期中、近江の名茶「極煎茶比叡」「琵琶湖かぶせ」、県産丹波黒豆使用菓子を販売。

(2) 特別展「岡本太郎アートの夢～陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形」パート1

この信楽の地で、大阪万博太陽の塔の裏側「黒い太陽」など、様々な作品を製作した岡本太郎は、芸術をじかに届けようと「芸術の大衆化」に挑んでいる。また今、アートをさらに身近なものにしているフィギュア造形の世界、フレスコ画家による新しい発想の壁画など、岡本太郎が願ったアートの夢、21世紀のその先を見つめた。

<開催期間> 令和5年7月15日(土)～9月24日(日) (61日間) ※1日臨時休園

<観覧者> 10,177人(1日平均166.8人)

【関連事業】

○ギャラリートーク

<開催日> 令和5年8月20日(日) <参加者> 30人

○連携企画/大塚オーミ陶業ショールーム見学会

<実施日> 令和5年8月31日(木) <参加者> 12人

(3) 特別展「岡本太郎 アートの夢～陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形」パート2

この信楽の地で、大阪万博太陽の塔の裏側「黒い太陽」など、様々な作品を製作した岡本太郎は、芸術をじかに届けようと「芸術の大衆化」に挑んでいる。また今、アートをさらに身近なものにしているフィギュア造形の世界、フレスコ画家による岡本太郎の新たな解釈など、岡本太郎が願ったアートの夢、21世紀のその先を見つめた。

<開催期間> 令和5年9月30日(土)～12月17日(日) (68日間)

<観覧者> 10,952人(1日平均161.1人)

【関連事業】

- 対話の森「大衆にじかにぶつかる芸術 21世紀のフィギュア造形を語る」
＜開催日＞ 令和5年10月8日(日) ＜参加者＞ 44人
＜対談者＞ 大山竜(原型師)×松井利夫(陶芸の森館長)
- ギャラリートーク
＜開催日＞ 令和5年10月15日・11月19日 ＜参加者＞ 20人・20人
- ワークショップ「カタチに描くフレスコ画」
＜開催日＞ 令和5年11月25日(土) ＜参加者＞ 15人
＜講師＞ 川田 知志(壁画家)
- 連携企画／大塚オーミ陶業ショールーム見学会
＜実施日＞ 令和5年11月10日・12月8日 ＜参加者＞ 13人・13人

(4) 特別展「リサ・ラーソン展 知られざる創造の世界～クラシックな名作とともに～」

スウェーデンの陶芸デザインで知られるリサ・ラーソンの当館では三度目の展覧会となる。おなじみの代表作とともに、今回初めて紹介されるスウェーデンの旧市街をモデルにしたレリーフや、少数しか生産されなかったコレクターズアイテム、グスタフスベリ磁器工房や自らの工房で制作した1点ものの作品など、これまで知られていなかった、もう一つの魅力と出会える作品約250点を紹介した。

- ＜開催期間＞ 令和6年3月2日(土)～3月31日(日) (次年度に継続)
- ＜観覧者＞ 7,975人(1日平均 306.7人) ※3月(26日間)実績

【関連事業】

- 信楽高原鐵道ラッピング列車運行
＜運行期間＞ 令和6年1月9日(火)～3月31日(日) (次年度に継続)
- レール&ミュージアム／信楽高原鐵道乗車券と展覧会観覧共通チケット販売
＜販売期間＞ 令和6年2月1日(木)～3月31日(日) (次年度に継続)
＜特典内容＞ 高原鐵道1日フリー乗車割引／観覧料2割引き
- ギャラリートーク
＜開催日＞ 令和6年3月24日(日) → 4月7日(日)に延期
- ここでもみられる“陶芸の森”コレクション
～北欧の現代陶芸—うつわの造形美展 ※甲賀市企画協力
＜開催期間＞ 令和6年3月16日(土)～3月31日(日) (次年度に継続)
＜開催場所＞ 甲賀市水口歴史民俗資料館
リサ・ラーソン展の関連企画として、陶芸の森で滞在制作したゲスト・アーティストの取り組みから、北欧でうつわの造形美を追求する4人の作品を紹介した。
- 「リサ・ラーソン展」関連親子向け特別講座—北欧デザインのお皿に挑戦！
＜実施日＞ 令和6年3月9日(土) ＜参加者＞ 34人

(5) 陶芸館ギャラリー企画展

ア. 陶芸館・新収蔵の逸品展

令和3年度の新収蔵作品の中から、アーティスト・イン・レジデンスで滞在していた作家、川尻潤氏と今野朋子氏の大型作品を紹介した。(前年度から継続)
＜開催期間＞ 令和5年4月1日(土)～23日(日) ＜観覧者＞ 3,486人

イ. アーティスト・イン・レジデンス企画「秋永邦洋&竹内紘三」展

令和元年度および3年度のゲスト・アーティスト、秋永邦洋氏と竹内紘三氏の作

品を紹介した。

<開催期間> 令和5年4月29日(土)～6月25日(日) <観覧者> 8,577人

ウ. 夏休み企画 子どもたちの土の造形展

つちっこプログラムで体験した子どもたちのやきもの作品を展示した。

<開催期間> 令和5年7月15日(土)～9月3日(日) <観覧者> 9,748人

エ. 川田知志「太郎の色とカタチ×パブリック」

「岡本太郎アートの夢展」パート2において、壁画家の川田知志氏が、陶芸館ギャラリーの全壁に岡本太郎の新たなイメージをフレスコ画で創出した。

<開催期間> 令和5年9月30日(土)～12月17日(日) <観覧者> 18,126人

オ. コレクション展 Part1「華開く近代京都の陶芸—宇野三吾と河井寛次郎」

多様な陶芸表現が広がった日本の近代陶芸を、滋賀とゆかりのある作家を中心に2部に分けて紹介した。パート1は宇野三吾と河井寛次郎を通じて近代京都の陶芸に光を当てた。

<開催期間> 令和6年3月2日(土)～3月31日(日)

<観覧者> 11,128人 ※3月実績

(6) 甲賀市との連携・甲賀市水口歴史民俗資料館での当館収蔵品の特別陳列

・甲賀のやきもの—八田焼・下田焼・水口光阿焼 7件

<開催期間> 令和5年12月2日(土)～令和6年3月13日(水)

<観覧者> 450人

・北欧の現代陶芸—うつわの造形美 8件 (再掲)

<開催期間> 令和6年3月16日(土)～31日(日) (次年度に継続)

<観覧者> 95人

(7) 試験場との連携・信楽窯業技術試験場ロビー企画展(信楽窯業技術試験場)

信楽窯業技術試験場のあゆみ [1901-2022] 33件(内14件当館所蔵品)

<開催期間> 令和5年4月3日(月)～令和6年3月29日(金) (次年度に継続)

<観覧者> 400人

(8) 他の県立施設と連携した取組みの推進

○美の魅力発信5館ネットワーク会議

・第1回(令和5年9月1日) 収蔵品活用、5施設紹介パネル活用 他

・第2回(令和6年3月6日) 合同記者発表会実施、HP相互リンクの検討 他

(9) 収蔵品収集・管理事業

県の収蔵品収集方針に基づき質の高い収蔵品収集に向けて、収蔵品収集審査会および価格評価委員会の審議を受け、購入作品2点、寄付作品30点の県収集に寄与した。

○作品貸出実績 9館49件 ○調査協力8件(美術館等)

(10) 博物館実習

<実施期間> 令和5年8月22日(火)～25日(金) 4日間

<受入人数> 2人(佛教大学・京都外国語大学)

2. 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業〔AIR事業〕）

国内外からスタジオ・アーティストの受入れや、ゲスト・アーティストの招へいを通じて、やきもの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるとともに、より良い作家、意欲的な作家を受け入れることによって、信楽から世界に向けて陶芸文化の情報を発信し、信楽地域の知名度向上に寄与した。

新型コロナウイルス感染症流行のため、受入れを延期していたアーティストを優先して受け入れる形でレジデンスの運営を行った。

(1) スタジオ・アーティストの受入れ 40人

日本－12人、中国－2人、台湾－5人、香港－1人、ロシア－1人、フランス－4人、ハンガリー－1人、ドイツ－1人、スペイン－1人、スイス－1人、インド－1人、イラン－1人、イタリア－1人、イスラエル－1人、アメリカ－5人、アイルランド－1人、オーストラリア－1人、

(2) ゲスト・アーティストの招聘 6組8人（国内1人／国外7人）

① 檜木野 淑子（大阪市）

＜滞在期間＞ 令和5年4月1日～4月15日（15日間／前年度から継続）
令和6年1月10日～3月31日（82日／次年度継続）

＜活動概略＞ 手びねりでキューブ型の大型作品を制作し、表面に模様を付け、下絵・釉薬での彩色などを行った。

② 広瀬 菜々／永谷 一馬（日本／ドイツ在住）

＜滞在期間＞ 令和5年4月1日～5月28日（58日間／前年度から継続）
令和6年3月21日～3月31日（11日間／次年度継続）

＜活動概略＞ ドイツの泥漿（でいしょう）を日本でも作れないか模索し、日本にしかない日常のものを型取りした。

③ マチュー・マンシュ（フランス・日本在住）

＜滞在期間＞ 令和5年4月2日～6月30日（90日間）
令和5年9月4日～令和6年3月31日（210日間／次年度継続）

＜活動概略＞ モダニズム彫刻や70年代インテリアなどから形を抽出し、再構築して成形し、所属の曖昧な形を制作した。

④ カプチャあさみ／サンドロ（日本／ペルー在住）

＜滞在期間＞ 令和5年6月25日～10月19日（117日間）

＜活動概略＞ ペルーの古代土器や動物をモチーフにした大型作品2体と小型作品を多数制作した。

⑤ プリヤ・サンダラバリ（インド）

＜滞在期間＞ 令和5年7月1日～10月25日（117日間）

＜活動概略＞ 釉薬原料、試験場、図書館など、信楽の様子に感銘を受けて多数の作品を制作し、日本の陶芸文化についても理解を深めた。

⑥ ミアゼヴァ・ハンナ（ベラルーシ／ポーランド在住）

＜滞在期間＞ 令和6年3月13日～3月31日（19日間／次年度継続）

＜活動概略＞ 細胞のような網目状に粘土を絞り出した作品を数点制作。一部の作品には金彩を施した。

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会等

○滞在ゲスト・アーティスト等によるアーティストトーク

＜実施回数＞ 5回 ＜参加アーティスト＞ 計8人 ＜見学者＞ 計85人

①アーティスト・トーク 《秋永邦洋／竹内紘三》

＜開催日＞ 令和5年4月29日 ＜参加者＞ 47人

②オープン・スタジオ 《広瀬菜々／永谷一馬》

＜開催日＞ 令和5年5月27日 ＜参加者＞ 37人

③オープン・スタジオ 《カプチャあさみ／サンドロ》

＜開催日＞ 令和5年9月9日 ＜参加者＞ 14人

④オープン・スタジオ 《プリヤ・サンダラバリ》

＜開催日＞ 令和5年10月9日 ＜参加者＞ 13人

(4) 陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー等を基点とした情報発信・活性化

○陶芸の森作品展「古琵琶湖層穴窯プロジェクト」

＜開催期間＞ 令和5年11月29日～12月17日

＜会場＞ 甲賀市信楽伝統産業会館 ＜観覧者＞ 1,271人

○陶芸の森スタジオ・アーティスト作品展

＜開催期間＞ 令和5年12月20日～令和6年1月14日

＜会場＞ 甲賀市信楽伝統産業会館 ＜観覧者＞ 1,249人

(5) 国内外の機関との連携

ア. 海外機関との連携

○海外のアーティスト・イン・レジデンス機関との交換プログラムにより、アーティスト3名を受け入れた。

①徐子涵（フ・ツーハン） 《台湾文化センター》

＜滞在期間＞ 令和5年6月1日～8月25日（86日間）

②葉怡利（イエ・イーリー） 《台湾文化センター》

＜滞在期間＞ 令和5年7月4日～12月28日（178日間）

③アテナ・ヤハンティ 《アトリエダール・フランス》

＜滞在期間＞ 令和5年9月1日～9月30日（30日間）

3. 子どもやきもの交流事業／「つつっこプログラム」

陶芸作家や地元産業、福祉、教育の関係者等で構成する「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」とともに、やきものに関する鑑賞教育や作陶体験など、学校との連携プログラムを展開し、信楽焼を始めとした陶芸文化の普及や、次世代の陶芸の森ファン獲得に努めるとともに、子ども達や障がいがある人の造形活動に対して支援した。

(1) 本物と出会うー総合的学習プログラム事業

・出張授業	121件	6,567人		
・ねんどと遊ぶ	4件	139人	（親子陶芸体験）	
・研修会	1件	40人	（滋賀県中学校校長会全員研修会）	
			計	126件 6,746人

○世界にひとつの宝物づくり事業 《実行委員会》

・来園制作	51件	1,894人	・特別講座	5件	130人
・来園見学	30件	2,617人	・信楽窯業技術試験場連携講座	2件	34人
・出張講座	7件	201人	・研修会等	9件	133人

第3 産業の振興に関する事業

1. 信楽窯業技術試験場との連携事業

(1) 信楽窯業技術試験場ロビー企画展（信楽窯業技術試験場）（再掲）

(2) 試験場研修生等に対する講座の開催

① 「湯呑茶碗展」コトづくりセミナー鑑賞会

＜実施日＞ 令和5年4月4日 ＜参加者＞ 35人（コトづくりセミナー）

② 「湯呑茶碗展」レクチャー&解説

＜実施日＞ 令和5年6月7日 ＜参加者＞ 8人（試験場研修生）

③ 「岡本太郎展」レクチャー&鑑賞会

＜実施日＞ 令和5年9月6日 ＜参加者＞ 17人（コトづくりセミナー）

＜実施日＞ 令和5年9月20日 ＜参加者＞ 10人（試験場研修生）

④ 「古琵琶湖層穴窯プロジェクト」への技術協力

信楽陶器工業協同組合青年部と試験場研修生、陶芸の森アーティストが交流を図り、約400万年前の古琵琶湖層から掘った土で制作した作品を穴窯で焼成した。

＜主催＞ 信楽陶器工業協同組合青年部 ＜協力＞ 試験場・陶芸の森

＜焼成＞ 令和5年11月14日～18日

(3) 試験場の技術協力によるデジタルコンテンツ制作（再掲）

試験場のVR技術のノウハウを活用し、陶芸館所蔵品のデジタル情報を順次追加することで、アーカイブサイトの充実を図り、インターネットによる展覧会の開催を試みた。また、「岡本太郎 アートの夢展」の関連作品と展示空間の3D撮影を実施した。

(4) 訪ねてみよう！信楽の窯元（信楽 窯元散策路 Wa との連携）を中心とした街中紹介湯呑茶碗展（前掲）の開催を機に、陶芸館ロビーで窯元散策路の見所をビデオで紹介。同展の会期終了後も継続して、入館者（観光客）の産地への人流促進に努めた。

2. 信楽高等学校への支援事業（下半期実施）

信楽高等学校地域協議会等の地域団体と連携し、デザイン科生徒の実習や施設見学等を受け入れ、地域での人材育成に努めた。

ア. 陶製椅子絵付け実習

＜実施日＞ 令和5年11月10日 ＜対象＞ 3年生：14人

イ. 野焼き体験実習

＜実施日＞ 令和5年10月19日 ＜対象＞ 2年生：26人

ウ. 陶芸の森施設見学

＜実施日＞ 令和5年11月14日 ＜対象＞ 1年生：58人

エ. 陶芸作家によるやきもの制作指導

＜実施日＞ 令和5年9月21日 ＜対象＞ 2年生：21人

オ. 登り窯体験実習

＜実施日＞ 令和5年10月26日 ＜対象＞ 2年生：23人

3. 若手陶器産業後継者等への支援事業

若手陶芸作家の発掘や陶器産業後継者の育成支援の一環として、陶芸館ミュージアムショップの「がちゃがちゃ（カプセルトイ）」で販売するモデル作品を広く公募した。

なお、デザインの優れた作品については、賞を授与するとともに、陶芸の森が一定数を購入してミュージアムショップの「がちゃがちゃ」で販売し、若手陶芸作家等への支援の一助とした。

＜募集期間＞ 令和5年9月12日～12月24日 ＜応募件数＞ 105件

＜入賞作品＞ 金賞「ちよっとちがう」（静岡県）

銀賞「はちゅおき」（福岡県）

銅賞「ガチャガチャズー」（岡山県）

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

- 「湯呑茶碗展」（会期75日間）

売上合計 1,272,370円（16,965円/日）

- 「岡本太郎展」パート1（会期62日間）

売上合計 4,906,254円（79,133円/日）

- 「岡本太郎展」パート2（会期68日間）

売上合計 3,801,435円（55,903円/日）

- 「リサ・ラーソン展」（会期74日間）

売上合計 25,290,608円（972,716円/日） ※3月（26日間）実績